

広報

わかた

Wakata



お魚さん
たくさん卵を
産んでね！

梅の里小学校 4・5年生
手作り魚道設置

6

2008
No. 38

若狭町の農業を支える
若者たちの挑戦

農業に笑顔



▲写真上 水田を耕す濱村さん
▼写真左 河村さんの指導を受ける濱村さん

うららかな春の日差し、新緑のさわやかな風。
学校では新学期がスタートし、1年生が新たな仲間入り。
のどかな田園風景の中、仲良く登下校する姿がなんとも初々しい。
そんな中、黙々と農作業に汗を流す若者がいます。
この春から、新たに新規就農した若者たち。彼らも農業1年生。
農業を職業にしたい。若狭町で農業をやってみよう。
そんな強い思いをもった若者たち。
田畑の放棄による遊休農地の増加。農業者人口の減少。米価の下落など・・・
農業を取り巻く環境が変化し、農業に携わる人たちが減少している中、
彼らはなぜこの地を選び、なぜ農業で汗を流す決意をしたのか・・・
この春、「かみなか農楽舎」を修了し就農を果たした
若狭町の農業を支える、若者たちを紹介します。

かみなか農楽舎

「都市からの若者の就農・定住を促進し、集落を活性化すること」を目的とした農業生産法人。1～2年の研修を行い新規就農への支援や、子どもたちへの農業体験事業を行っています。2001年設立。耕作面積36ha

■きっかけ

この春、新規就農を果たしたの濱村綾信さん（相田・30歳）、森本聖香さん（相田・24歳）、渡辺直輝さん（成出・21歳）の3人。濱村さんは大阪市出身の都会育ち。森本さんは高知県土佐市出身の地方育ち。そして渡辺さんは地元成出出身で、3人とも「かみなか農楽舎」で研修を積んできました。

3人とも農業への思いは子どもの時から強く、濱村さんは「食べることが大好きで、中学生のころから農業に関心を持ちながらも、農業に携わる機会を得られないまま大阪で過ごしていま

した。そんな中、友人が手がけた美容ワイン店を手伝いながら原料の生産者と関わるうちに、心に秘められていた農業への熱い思いが呼び起こされました。さっそく、農業研修ができる施設を探し出し、出会ったのが「かみなか農楽舎」でした。最初に農楽舎を訪れたとき「故郷に帰ってきた」という感じでした」と笑顔で話してくれました。

「居心地が良くなって残ってしまいました」と話すのは森本さん。森本さんは鳥取環境大学に在学中、友人に誘われて「かみなか農楽舎」のインターンシップ事業に参加。元々は環境政策学を

学んでいましたが、農楽舎の気風に引かれ、農業に興味を持つことに。農業の魅力に取りつかれた森本さんは大学卒業後、農楽舎の門を叩いたのです。

そして、農楽舎初の地元出身研修生渡辺さんは「実家が梅農家。小さいときからおじいちゃんおばあちゃんの農作業を手伝っていて農業に興味がありました。大きくなるにつれその思いは強くなっていきました」と話すとおり、渡辺さんは農業への強い思いから福井農林高校、和歌山県立農業大学校へと進学。卒業後、かみなか農楽舎で研修を積みました。

次の世代の人たちにも 農業のすばらしさを伝えたい 伝えられる農家を目指したい

代掻きの補助をする森本さん



▲新規就農を喜ぶ河村さん(写真中央)と森本さん(写真左)、濱村さん(写真右)



▲直輝さん(写真右)に農地を任すことができ喜ぶ祖父・清さん(写真中央)と祖母・百合江さん(写真左)



☞ ここには強い味方が

3人は農楽舎での研修生活を振り返り「農楽舎は日々勉強でした。特に地域の人と伝統行事や草野球などで関わったのも大きかった。農楽舎では農業に携わる上で大切な“地域の方々の関わり”を教わりました」と話してくれました。濱村さんは「道端で会った人からも気軽に声をかけられ、挨拶してくれます。大阪では考えられない。こんな若狭町が好きになりました」、森本さんは「作業を終えて帰る途中、よくおばあちゃんから声をかけられ採れた野菜などをいただきました。黙々と農作業を続けるおばあちゃんたちの姿、意気込みに感動しました。おばあちゃんたちから人と人との助け合いを教えてもらい、ここには力強い味方がたくさんいること

に気づきました」と地域の人々の人柄に引かれた心境を話してくれました。

☞ そして就農

3人は農楽舎の研修を終え、ひとり立ちの時がやってきました。濱村さんと森本さんは県外の出身ですが、農楽舎で経験した若狭町の風土と人柄に惚れ込み、若狭町での就農を決意。就農先を模索していました。そんなときに出会ったのが、農業歴40年の認定農家・河村石松さん(相田)です。「農業は楽しくするもんだ」と考える河村さんに共感し、「農業はマイナスイメージが強いけど、それを払拭する農家になろう」と河村さんに弟子入り。相田区に居住し新規就農を果たしました。

☞ 地域の人を元気に

河村さんは「まだ始まったばかりですが、二人は大変よくがんばっていますよ。感心しています。」と評価し、「農業離れが進んでいる中、こんな若い人が就農してくれるのは、本当に喜ばしいですね。農業を守るばかりでなく、地域の人々を元気にしてくれるのではないのでしょうか」と笑顔で話していました。

☞ 目指すは梅の巨匠

梅畑3ha、先祖代々農家である渡辺さんは「父母が会社勤めで、専業でやっているおじいちゃんおばあちゃんも高齢になった。そろそろ世代交代しなければと思い今年新規就農しました。同じ農業を志す農楽舎の皆さんと出会えたことを財産に、三方梅のブランドを守りながらも、将来は全国に名が轟くほどの“梅

の巨匠”になりたいです」と目を輝かせていました。

☞ これからも守ってほしい

「後継ぎができて本当にうれしい。先祖から受け継いだ農地を大切に今日まで頑張ってきました。直輝が後を継いでくれるとなったとき、今まで頑張ってきた甲斐があったと、心からこみ上げてくるものがありました」と喜びあふれる笑顔で話してくれたのは、直輝さんの祖父・清さん。先祖から引き継いだ農地をひたすらに守ってきた清さんは喜びを隠せませんでした。祖母・百合江さんも「農業を始めてまだ間もないですが、思ったより頑張っていると思います。わたしたちが反対に怒られることもありますよ。指導してもらってます!」と直輝さんの働きぶりに感心。直輝さん

に何か伝えたいことは?と尋ねると二人は「わたしたちが頑張ってきた農地を、これからもどうにか守ってほしい。それだけです。加えらしたら、お嫁さんが早くあたるように。ですかね」と話すと、直輝さんは照れ笑いを浮かべながらも祖父母の思いを胸に、大切な農地を守ることを決意していました。

☞ 次の世代へ

新規就農を果たした3人。理想の農家像は?との問いかけに共通して「次の世代にも農業のすばらしさを伝えたい。そして、伝えられるような農家を目指したい。これで終わりにならないように」と答えてくれました。彼らの活躍が農業に明るい未来をもたらしてくれるに違いありません。

若狭町の農業は一步一步元気に

若狭町の農業を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。2005年の農家数は1,698戸、農家人口は7,247人でした。2000年の農家数1,903戸と比較すると農業離れが顕著にうかがえます。また認定農家は63人で高齢化が進行しているとともに、後継者不足に悩まされています。そのほか、米価の下落による経営の悪化、獣害被害など課題は多く、遊休農地の増加にもつながっています。嶺南振興局二州農林部で農業の経営指導に携わっている冬廣吉朗主任（朝霧）

は「新規就農者数自体は減ってはいませんが、定年退職後の就農など年輩の方の就農が目立ちます。若い人による就農は農業自体に元気が出ます。元気が出るための支援はわたしたちの使命ですので、これからも全面的にバックアップしていきたい」と力強く話していました。

■ **地域が元気になりました**
かみなか農楽舎は、創設以来21人の卒業生を生み出し、そのうち17人が現在若狭町で就農しています。創設時から栽培指導員として研修生を見守っている

下島栄一さん（末野）は「若狭町の農業は少しずつ元気になっています。彼らの影響を受け地域の人々も徐々に変わり、行事ごとなども活気づいています。地域が元気になりましたね」と農業以外への効果も教えてくれました。

■ **お互い頑張りましょう**
そんな地域を盛り上げてきた1人で、農楽舎第1期の卒業生市川昇さん（大鳥羽）は「就農して農業が嫌になったことは1度もありません。農業は手間をかければそれだけの結果が得ら

れます。作物は嘘をつきませんからね。それが農業の魅力です。新規就農者の皆さん、お互い頑張りましょう」とエールを送っていました。

新規就農者、先輩農家、地域の人々などの力で若狭町の農業は一步一步元気になっています。

市川 昇さん
Noboru Ichikawa

認定農家
農楽舎1期生
耕作/水稲4.4ha
ハウス2棟ほか
大鳥羽在住



前を向いて笑っていきましょう

独立すると農楽舎の研修期間とはまったく違った日々が待っています。辛いことや苦しいことなども多々あります。しかし、その分楽しいこと嬉しいこともあると思います。若狭町で農業をすることを喜び、どんなことがあってもあきらめず、前を向いて笑っていきましょう。



冬廣吉朗さん
Yoshiro Fuyuhira

福井県嶺南振興局
二州農林部技術経営支援課
主任
趣味/映画鑑賞
朝霧在住

創意工夫が大切

農業は自然相手で、計算どおりに行かないことが多々あります。常に創意工夫が大切だと思います。また、地域と離れていては農業は成り立ちません。地域の人たちに支えられている、生かされているということを常に頭に入れてがんばってほしいです。若い人たちが元気になるような農家になってほしいです。

応援

しています！



下島栄一さん
Eiichi Shimojima

かみなか農楽舎
栽培指導員
趣味/植木
末野在住

温故知新でがんばってほしい

農楽舎卒業生のほとんどが地元で就農しています。彼らは「人間らしい姿・気持ち」を率直に農業にぶつけていますね。新規就農者には地域の方々を大切に、先祖から大切にされてきた農地を預っているという気持ちを大切に、温故知新でもって若者を引き付ける農家になってほしいです。

河村石松さん
Ishimatsu Kawamura

認定農家
農業歴/40年
耕作面積/水稲15ha
趣味/パソコン
相田在住



楽しみながら農業を

農業は天候の影響を受けたり大変なところもありますが、自然や地域を大切に、思いやりの気持ちでがんばってほしいです。農業はイヤイヤやっていると絶対だめ、大変な時でも楽しみながら農業をしてほしいです。若狭町に安心した農業があるようにこれからも頑張ってください。

臨時議会

若狭町議会正副議長、常任委員会など 役職の改選がありました

5月9日に開催されました臨時議会で、議長に清水宏議員、副議長に中上馨議員が選任されました。このほか、各常任委員会、特別委員会などの構成が決定しました。



議長 清水 宏



副議長 中上 馨

議長就任のごあいさつ

この度の議会の構成替えにおきまして、多くの議員各位のご推挙によりまして町議会議長の要職に就かせていただくことになりました。誠に身に余る光栄であり、この上は身を挺してその職務を全うしていかねばならないと決意を新たにしている次第でございます。

若狭町も合併をして、四年目を迎えております。その間、議会も町内一円の一体化、融和を第一として議会活動に取り組んでまいりました。住民の皆様方もこの思いは同じく、各種団体等におきましても着々とその成果を上げていただいております。

国、地方とも財政事情は大変厳しい時代の中ではありますが、今年度は議会第一期の最後の年であり、住民の皆様から頂いた議員としてのまちづくりの責務、町の発展と町民福祉の増進に誠心誠意努力をいたす覚悟でございます。

何とぞ皆様のご理解ご支援を賜りますよう心からお願いを申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

若狭町議会議長 清水 宏

若狭町議会構成

■総務常任委員会

委員長 小堀友廣
副委員長 清水利一
委員 増井九右衛門
清水 宏
武田敏孝
藤本 勲

■建設産業常任委員会

委員長 中村正彦
副委員長 松本孝雄
委員 中島正昭
藤内良満
中上 馨
井上治継

■教育厚生常任委員会

委員長 大塚季由
副委員長 藤田美穂
委員 小堀信昭
小林和弘
河原一夫
井口一男

■議会運営委員会

委員長 河原一夫
副委員長 藤本 勲
委員 小堀友廣
大塚季由
中村正彦
中上 馨

■広報特別委員会

委員長 井上治継
副委員長 藤田美穂
委員 小堀友廣
松本孝雄
小林和弘
武田敏孝

■原子力発電安全対策特別委員会

委員長 松本孝雄
副委員長 藤本 勲
委員 小堀友廣
藤内良満
清水 宏
中村正彦
中上 馨
河原一夫
武田敏孝

■総合交通対策特別委員会

委員長 小林和弘
副委員長 小堀信昭
委員 藤田美穂
中島正昭
大塚季由
増井九右衛門
清水利一
井上治継
井口一男

「ふるさと納税」制度 スタート!!

町外にお住まいの
息子さんや娘さん
ご親戚に
ご紹介ください!!

ふるさと納税制度は、福井県や若狭町に寄付すると、所得税と住所地の住民税が軽減される制度です。

若狭町で生まれ育ち、現在は都会や離れた地域に住み、活躍されている方々で、ふるさと若狭町に何か「貢献したい」と思われる方は、ぜひこの制度を利用して若狭町を応援してください。

ご寄付いただいた大切なお金は若狭町の発展のために有効に活用させていただきます。

若狭町がもっともっと元気になるために、ご協力をお願いします。

★ふるさと納税のメリット★

★メリット1 ふるさとが元気になります

ふるさと納税としてご寄付いただいたお金は若狭町が推進する事業に有効に活用され、ふるさと若狭町が元気になります。

★メリット2 住民税が軽減されます

ふるさと納税としてご寄付いただいた金額から5,000円を引いた額(ただし住民税所得割額の1割を上限)が、お住まいの自治体の住民税から差し引かれます。

★手続き方法★

ステップ1 「寄付申出書」をご提出ください

寄付申出書を次のいずれかの方法でご入手いただき、ご提出ください。

- ①若狭町役場に電話し申出書を入手し、郵送などで提出する。
- ②若狭町ホームページから申出書をダウンロードし、郵送などで提出する。
- ③若狭町ホームページから電子申請する。

ご提出後、若狭町役場より支払用書類などを送付いたします。

ステップ2 寄付金をお納めください

次のいずれかの方法で寄付金をお納めください。

- ①若狭町役場から送る振込用紙などにより金融機関で納める。
- ②若狭町役場へ現金書留で送金する。
- ③銀行の窓口(ATMなど)から振り込む。
- ④若狭町役場で現金で支払う。



“息子さんや娘さん、ご親戚が都会などでお暮らし”の方々へ

若狭町では「輝きと優しさに出会える町」を基本理念に、福祉、子育て、環境などの事業を展開しています。これらの事業推進にあたっては「少ない経費で最大の効果」が得られるよう日々努力していますが、昨今の経済状況、国の税制改革等により、その財源が不足しています。

都会などでお暮らしの息子さんや娘さん、ご親戚に本制度をご紹介いただき、若狭町のさらなる発展にご協力ください。

ふるさと若狭町を 応援しよう!!

「ふるさと納税をしたい」「もっと詳しく知りたい」と思われる方は詳しく説明いたします。お気軽にお電話ください。

●納税申し込み・問い合わせ 総務課 TEL0770-45-9109

ホームページ <http://www.town.fukui-wakasa.lg.jp>

※ふるさと納税は、町内にお住まいの方でも寄付することができます。
※ふるさと納税は、若狭町のみならず福井県に対しても寄付することができます。

まちの話題

WAKASA TOWN NEWS

自転車の乗り方大丈夫？

小中学校交通安全教室 (4/14 ~ 5/13)

町内の各小中学校で交通安全教室が行われました。

野木小学校では、小浜警察署の署員と交通指導員6人が児童を指導。自転車の基本操作や乗り方を学びました。自転車の乗り方では、署員が発進時の左右確認方法などを説明後、実際に道路に出て指導を受けました。道路では、交通指導員の誘導で正しい自転車の乗り方を学び、児童らは真剣な表情で取り組んでいました。



警察官の指導のもと横断歩道を渡る児童

美しい音色に感動

今川裕代さん学校訪問コンサート (4/17・18)

国際的ピアニスト今川裕代さんによる学校訪問コンサートが町内3小学校(三宅、鳥羽、気山)で行われました。今川さんは幼少時代を若狭町で過ごし、現在はザルツブルグ(オーストリア)に在住。国際的なコンクールで数々の賞を受賞し国内外から注目を集めています。

児童たちは、ピアノのそばに近づき今川さんの軽やかなタッチに見入ったり、一緒に合唱したりで、プロのピアニストの技と音色に感動していました。



今川さんの演奏で楽しく合唱する児童

感謝の気持ちを忘れずに

ふぐ供養 (4/22)

民宿などでもてなしたふぐや魚介類に感謝する「ふぐ供養」が塩坂越海岸で行われました。昨シーズンは約1万1,000匹のふぐが民宿などから提供され、観光客の舌を楽しませました。供養では森下幸一観光協会長が「観光業は依然として厳しい状況ですが、ふぐや魚介類への感謝の気持ちを忘れずにがんばっていきましょう」とあいさつ。続いて関係者らが8匹のトラフグを放流し供養しました。



ふぐを放流する関係者

生活習慣病の予防は可能？

第3回若狭町健康を考えるつどい (4/27)

若狭町健康を考えるつどいがパレア若狭で開催され、約100人が生活習慣病について学びました。つどいでは、保健師が健診結果の読み取り方などの説明後、美浜町東部診療所所長の村寄文人先生が生活習慣病についてユーモアを交えながら講演。その後、実際に生活習慣病を改善した人の体験談の発表や健康体操が行われました。つどいに参加した岡田利政さん(気山)は「食事などに気をつけて、生活習慣病にならないようにしたい」と話していました。



健康体操をする参加者

絶景を求めて

三十三間山山開き (4/29)

雲一つない晴天となったこの日、三十三間山の山開きが倉見の登山道入り口で行われました。三十三間山は「登山道が整備され、危険箇所も少ない登りやすい山」として登山愛好家などに親しまれています。

山開きでは、十村岳人会の清水民夫さん(井崎)が「エイエイオー」の掛け声を行い、約150人が祈念登山。毎年祈念登山に参加しているという今井千代子さん(佐古)は「1回登るとやみつきになります。山頂からの景色は絶景です。今日は孫と一緒に楽しめます」と話し山頂を目指しました。



頂上を目指し祈念登山する登山者

家が明るくなり、元気がでます！

出産祝い金贈呈 (5/7)

本年度から、第3子以降が誕生すると20万円が支給されることとなった出産祝い金制度。4月7日、最初のおかちゃんが誕生しました。なまえは渡辺百音ちゃん(成出、親:治彦さん、真理子さん)。5月7日、千田町長から出産祝い金20万円を受け取った母・真理子さんは「3月下旬に陣痛がきて(受給は)無理かとも思いました。大変ありがたいです。この子にもたくさんのお友たちができるように、子どもの数が増えるといいですね」と喜んでいました。祖父・平治さんは「我が家は9人家族になりました。子どもたちで家が明るくなり、元気がでます」と話してくれました。



千田町長から出産祝い金を受け取る渡辺真理子さんと百音ちゃん。長男治紀くん、長女朋香ちゃんも同席